

平成 22 年度第 1 回東京都生活習慣病検診管理指導協議会 がん部会

- 【開催日時】 平成 22 年 7 月 15 日（木曜日） 午後 6 時から午後 8 時まで
- 【出席者】 上畑委員、青木委員、岡野委員、小野委員、斎藤委員、曾我委員、角田委員、徳田委員、山口委員、弓倉委員
- 【事務局】 保健政策部長、健康推進課長、副参事（健康づくり担当）、健康推進係長、成人保健係長、課務担当係長、健康推進係 1 名、成人保健係 2 名
- 【欠席者】 三好委員

報告 1 平成 20 年度がん検診の実施状況について（資料 1）

- 東京都の状況については、全国の受診率と同様に、胃がん、肺がん、大腸がんの受診率が少し減少しているという結果。
- 平成 20 年度から特定健診が導入されたことに伴い、報告内容が変更。要精検者数やがんの発見率などは、1 年遅れでの報告。
- がんの 75 歳未満の年齢調整死亡率は、肺がんと大腸がんについては、死亡率は全体的に減少傾向、乳がん、子宮がんは若干上昇傾向
- 東京都で算出した SMR は、女性は 5 がんすべてで全国より高く、乳がんの SMR は全国で一番高い

【乳がん検診の実施方法について】

- 委員：区市町村別の乳がん検診受診率の中で視触診単独実施ありというのは、その区の中でいろいろなやり方をやっていて、単独でやっているところもあるという意味か。
- 事務局：視触診単独実施とマンモグラフィを年ごとで併用した形で実施しているものである。
- 事務局：40 歳未満の乳がん検診は視触診で行っている場合も含んでいる。

【がん検診受診者の概要について】

- 委員：重要なのは、検診を受けている人のうちの何割が初回で、何割が非初回かという情報。分母は当該人口または受診者としたほうがよい。
- 事務局：総数と不明と初回、非初回という形にして、割合は対象人口と、それぞれの受診者を分母としてわかるように訂正する。

報告 2 平成 22 年度がん予防対策の概要について（資料 2）

- 平成 22 年度がん予防対策の概要
- 「Tokyo 健康ウオーク 2010」
- 東京都がん検診推進サポーター
- 地域がん登録 について、事務局より説明

【東京都がん検診推進サポーター事業について】

- 委員：サポーターは、初年度どれぐらいの応募で、それが職域検診全体の何%ぐらいになると予測しているのか。
- 事務局：割合で出すのは難しいが、今年度中に 50 社ぐらいを目標にしている。

- 委員：ターゲットとしている事業所の規模はどのようなものか。
- 事務局：アピール度が高い大企業にも入ってもらいたいが、中小の企業にも参加を働きかけている。
- 委員：健保組合ごとの参加もあるのか。
- 事務局：健保組合は、今回は対象にしていない。企業を単位と考えている。ただ、健康保健組合から企業への働きかけもあると思うので、保険者協議会などで、この事業について紹介している。
- 委員：がんに関する研究会や学会等に企業で参画しているところもある。そういうところに募集案内を置くと効果的ではないか。また、実際に企業の中でどのぐらいの人数が検診を受けたか、など、積極的に統計を出すことが重要。
- 委員：この事業の評価のために、ベースラインをどこにとるか決めたほうがよい。集計のフォーマットを作り、検診の内容、対象年齢、頻度、間隔、精検受診、トレース・トラップの実施など、フォーマットをつくって、埋めてもらうように指導するとよい。
- 委員：サポーターの募集については商工会議所や商工会を通じて各区市町村の身近なところに情報提供するのも一つの方法である。
- 委員：企業に支援金を出すなら、その範囲だけで活動を終わらせないようにしたほうがよい。

【地域がん登録について】

- 委員：がん拠点病院の会議でも、早急に推進してほしいという強い希望がある。
- 委員：第2ステップで、拠点病院以外でのがん登録を推進するために、何か戦略、戦術はあるのか。
- 事務局：院内がん登録については、がんの医療の部分を担当している医療政策部が、拠点病院16カ所以外に、今年度から16カ所に増えた認定病院でも、院内がん登録を実施している状況である。そのほかの病院については今後、例えば駒込病院が実施主体になって、研修会や、今後実施する医療機関への研修等も実施する予定があると聞いている。
- 委員：DPCの機能係数などが議論されているが、こういうものにちゃんと協力していることが評価されれば、自動的に参加するようになると思う。
- 委員：近隣から多くの患者さんが都内に入院していると思うが、そのがん登録というのは、都内の病院の全面協力なしには不可能である。近隣諸県との連携なしで、都内在住の人だけの情報を収集していてよいのか。
- 事務局：千葉と神奈川の情報も国立がん研究センターに届け出ていると聞いているが、個人情報保護上から言うと、東京都としては東京都民の情報しか集められない。そこを何かクリアする方法を国が考えないと、都道府県間での情報の交換や、圏域を超えた登録というのはできない状況である。
- 委員：最終的には公的基盤、法律をつくることである。

【その他：職域のがん検診について】

- 委員：職域のがん検診の中で、それぞれの会社の産業医が関わっていると思うが、産業医の研修の中に、がん検診についての内容が入っているのか。
- 事務局：産業医研修の中には入っていない。
- 委員：職域のがん検診の実態として、対象年齢などがわかっていない企業たくさんある。産

業医のトレーニング過程に介入するのも、一つの手ではないか。

- 委員：職域検診では、がん検診は必須ではないので、いわゆる事業所検診という取り扱いになる。ただ、従業員たちの健康に関することとして、がんについて、取り扱って構わないので、産業医の研修会の中にがんに関する内容をある程度入れることも可能だと思う。

報告3 その他（参考資料5、6）

- 平成21年度のがん検診受診率向上事業の取り組み事例報告書
- がん検診リーフレット について事務局より説明

議題1 平成22年度がん検診精度管理評価事業について（資料3）

- がん検診チェックシート
- 事業評価のための点検表
- 精密検査対象者への追跡調査について
- 他県の精度管理事業の状況 について事務局より説明

【がん検診チェックシート、事業評価のための点検表について】

→特になし

【精密検査対象者への追跡調査について】

- 委員：最近、2カ所の検査機関から精検結果把握の協力依頼があった。検診を受託した機関が責任持って結果を把握しようとしている。メディカルクラークに対して診療報酬がつくことになり、外部からの問い合わせに対応しやすくなったことも大きい。このような書式を一つモデルとして、検診受託機関での取組を進める良い機会ではないか。
- 委員：東京都予防医学協会では、特に5がんを対象に、追跡調査を実施している。1つのメリットとして、精密検査機関からのレポートを、読影医にフィードバックするので、読影医自身のクオリティーが上がってきた。ただし、郵送費など、費用がかかるのが問題。
- 委員：平成20年度の精検結果の把握から1年間猶予ができた。費用をかけて、きちんと把握するところもあると思うが、今までと全くやり方を変えないところもあるのではないか。データが出てきたときに、見せてほしい。
- 委員：初回の受診勧奨で受診率が向上したという話があったが、同じような方法で、いわゆる精密検査の受診勧奨に取り組んでいる地域というのはあるのか。精検受診率も低いところは低いので、把握ができていないのか、受診していないのか、受診勧奨をしているのか、というようなところは把握しているのか。
- 事務局：区市町村への補助事業で、例えば保健師等による精密検査対象者への受診勧奨について、費用の2分の1の補助を行うというのは実施しているが、それほど実績が伸びていない。20年度に作成した「東京都がん検診の精度管理のための技術的指針」の中で、精密検査の結果把握についてひな型を示したのと、区市町村に対するチェックリストできちんと精密検査の結果を把握するというのを一つ入れている。精検検査の把握に費用が生じるなどの理由でなかなか取組が進んでいかないのも事実なので、20年度の結果で、少しでも伸びているとよいと思う。

- 委員：新たな取組ではなく、チェックリストのチェックボックスが埋まらないところを埋めるように、区市町村に言うべき。
- 委員：精検結果が来ないことにはやはり精度管理できないので、今後、生活習慣病検診管理指導協議会の全国組織を作るなどしていかないと難しい。
- 委員：東京においては、医療機関間の競争が激しいため、連携が非常に重視され、紹介元からの問い合わせに答えるようになってきている。医療連携室などをうまく使うとよい。
- 委員：がん検診は、それぞれの区市町の行政が実施主体になっており、がん検診のやり方もまだ統一されていない。検診発見例のがんの追跡を含めた話も同時に必要だが、まず、何とかがん検診の手法の統一化をするほうがよい。
- 委員：陽性的中率など、精度管理がおそらく重要になってくる。アメリカのガイドラインのような指標が実は日本であんまりしっかりしたものがないので、そのあたりも今後、いろいろながんでつくっていかなければならないと思う。
- 委員：5がんの精度管理の許容値や目標値は健康局長名か何かで出していて、ホームページでも公開している。
- 事務局：各区市町村には、例えば年度当初の課長会での説明会や、担当者の説明会で、精度管理指標の許容値、目標値というものについて、説明しているが、東京都の場合には、どの値もかなりよくないので、少しでも改善ができるように働きかけていきたい。